

# 起業家精神を育む アントレ教育を10年間支援して

(一般財団法人) 大阪科学技術センター ATAC 会員 三原恵二郎

2010年の初め、思いがけない嬉しい電話がありました。それは「先生のヒントで構想したスタチによる地域おこしの企画で学園のビジネスコンペにチャレンジした結果、最優秀賞を頂き百万円を獲得しました」との報告でした。彼は阿波徳島の出身で、生まれ育った山間僻地の活性化を志す立命館大学の当時3回生のアントレプレナー受講の学生でした。

阿波徳島はスタチの国内最大生産地であり、この消費拡大が県の使命となっています。亜臨界技術によりスタチをペースト状にすると、外観不良で廃棄されるスタチも丸ごと食材に再活用できます。またスタチは高齢者でも容易に扱える背が低い樹であり、その生産増は高齢化する山間地域の再活性化に寄与します。先進科学技術を活用して地域興隆を研究するのも青年のミッションかもしれないね!と前年に話題提供していました。

彼以外にも多数の学生がここ10年の歴史の中で活躍して、国内外の地域や機関が開催するビジネスコンペでの表彰を数多く受けています。ゴミ処理に困っていたたばこのフィルターを繊維化してTシャツを作り、2011年京都の国民文化祭でのファッションショーで受賞されたこと、自身障害者であることからの知恵で国内バリアフリーの権威となり、日経ビジネスから「日本を変える百人の一人」に数えられる卒業生も現れていること等は特筆されます。かかる積極性豊かな学生が育ってきた大学カリキュラムについての経緯を説明しましょう。

厳しい国内外の競争に打ち克つために、産業界は起業家精神の豊かな人材の育成・輩出を大学に求めています。文科省はこの社会の要請に応えるために2004年度から「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム(現代GP)」で有意な大学プロ

グラムに3年間財政支援をしています。立命館大学は草津キャンパスにおいて「自立的で創造的(アントレプレナーシップ)な人材」育成を目的とした文理共通(理工系、文系)の「産学協同アントレプレナー教育プログラム」を開発して、2005年度文科省から支援を受けることとなりました。

本プログラムはアントレプレナーシップの本質を理解し、実際に学生がそれを実践して産業界で評価を受けるまでを視野に入れた、「基礎科目群」「展開科目群」「実践科目群」からなるカリキュラムになっています。

展開科目群では、産業界の現場での経験やイノベーションの事例を具体的に教えるために、ATACが製造現場の経験を有する講師陣や、マーケット展開で活躍する講師陣を探索して、各界の企業経験者や現役の経営者を講師として招聘して講義を行いました。

講義は数十名の男女学生を対象に半期で15講座、テーマは毎回代わる講師の経験に即したテーマで、例えばスマホの発展の歴史・現状・展望・問題点など、多くの産業分野の現実の事例を講義しました。また、学生のインターンシップ先として、講師の所属事業所で実習し、実情を目の当たりにできるようにも支援しました。

2005年度の講座開始時点では、講座は学生に認知されていなかったが、講座開設に尽力された経営学部黒木教授やスタッフ各位の並々ならぬ努力の結果、順次認知も深まり、文科省からもモデル校として注目されるまでになっています。

ATACは、学生や企業における若手を対象とした人材育成に関しては多くのノウハウを有しており、産学の各位と連携協力して有意な青年層の育成に貢献することを期しています。